

## 2009年(平成21年) 夏期教育研修会

### 「特別支援教育の課題解決に向けて」

主催：芦屋大学大学院発達障害教育研究所

夏季休業中の8月、次の研修会を開催いたします。

特別支援教育をめぐる、教育現場では様々な問題・課題を抱えての取り組みが進められています。その実践の一助になればと研修会を計画いたしました。参加していただき、共に力量を高め2学期に備えましょう。

8月19日(水)20日(木) 場所：芦屋学園サテライト教室

日(曜)	時間	研修内容	講師
19日 (水)	9:30 ~ 11:30	適応障害事例の病態と対応法	油井邦雄 芦屋大学大学院兼臨床教育学部教授
	12:20 ~ 14:20	すべての子どもが輝くために ~子どもの理解とその支援 マルチアレンジング サポート~	橋本正巳 くらしき作陽大学教授
20日 (木)	9:30 ~ 11:30	乳幼児発達理論に基づく個のニーズへの理解	林知代 芦屋大学准教授
	12:10 ~ 14:20	保護者の立場から考える特別支援教育 ならびに学校と保護者の連携	小崎真佐子 兵庫県LD親の会副代表

#### 講師紹介

油井邦雄	芦屋大学大学院兼臨床教育学部教授 日本精神神経学会精神科専門医、医学博士 豊中市「さわ病院」で発達障害の診療に従事(脂肪酸の治療効果の臨床試験を実施中)
橋本正巳	くらしき作陽大学 子ども教育学部教授 兵庫教育大学大学院客員教授、NHK教育テレビ特別支援教育番組番組委員 特別支援教育土スーパーバイザー、心理リハビリテーションスーパーバイザー
林知代	芦屋大学臨床教育学部教育学科准教授 芦屋大学カウンセリング室(学生相談室)カウンセラー、六甲カウンセリング研究所主任カウンセラー
小崎真佐子	兵庫県LD親の会 たつの子 副代表

## 受講対象者

幼稚園～高等学校の教員を対象にしています。(非常勤でも可)

## 受講申込方法

### (1) 往復葉書使用の場合

〒659-8511 芦屋市六麓荘町 13-22 芦屋大学大学院発達障害教育研究所宛 官製往復葉書で申し込んで下さい。(研究所電話:0797-23-0661)

#### (往)葉書には

「夏期教育研修会の受講希望」と書いてください。宛先は上記の研究所宛でお願いします。現在の勤務校(または園)を必ず記載して下さい。ご自身の氏名、ご自宅の住所を必ず記載してください。また振り仮名をお願いします。

#### (復)葉書には

宛先はご自分の住所を記載して下さい。(郵便番号を忘れないようにしてください)裏面には研究所より、受講可、不可のお知らせを書き、ご自宅に郵送いたします。

### (2) メール使用の場合

件名には必ず【夏期教育研修会の申し込み】とお書き下さい。

内容 (往)葉書とおなじ内容をお書き下さい。アドレスは【[info-idr@ashiya-u.ac.jp](mailto:info-idr@ashiya-u.ac.jp)】受講の可、不可について、申し込み者のメールに返信します。

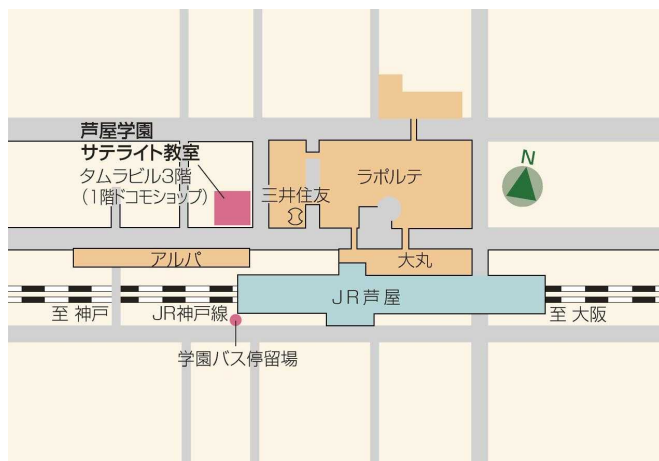
## 定員と締切日

定員は40名です。定員に満たば締め切らせていただきます。**締切日は7月23日(木)**7月31日までにお知らせします。(葉書またはメール)

## 費用

教材費として8月19日(水)に、2,000円徴収いたします。

## 芦屋学園サテライト教室の場所



## 2009年(平成21年) 夏期教育研修会 講義内容

8月19日(水)午前9時30分～11時30分

適応障害事例の病態と対応法(油井邦雄)

学校で多動、衝動行為、注意障害、こだわり、コミュニケーション障害、学習障害で難渋する事例には発達障害の様々な病態が混在しています。注意欠陥多動性障害と診断された症例でも強迫的なこだわり、先生が言っている意味がわからない、付き合いがスムーズに行かず孤立しているといったコミュニケーション障害やそのために生じる被害観念、暴力行為が見られます。このような事例に注意欠陥多動性障害の対応をしても症状を悪化させることがあります。さわ病院の私の診療には、自己流のこだわりをわがままと捉えられて、厳しいしつけを受けて家庭内暴力に至った青年期の女性、他人と心の交流ができずうつ状態や自殺未遂を反復して「人格障害」と診断されて苦しんでいる30代女性、こだわりを持つ長男を感情的に叱ったために反抗がエスカレートしたのを脳神経の異常と考へて担当医を転々とする母親など、病理と病態が理解されていない事例が増えています。注意欠陥多動性障害は新しい治療薬でほぼ90%は良くなります。アスペルガー障害もセロトニンを増やす向精神薬や脂肪酸サプリメントで社会性障害が改善します。研修会では適応異常の事例について、病理と病態、適応訓練、薬物療法について説明します

8月19日(水)午後12時20分～14時20分

みんなが輝くために(橋本正巳)

～子どもの理解とその支援 マルチアレンジング サポート～

気になる子どもとの関わりについて、クラスのユニバーサルデザイン型支援から一人ひとりに応じた指導・支援まで含め、行動面を中心に「子どもの特性の共通理解と一貫性のある関わり」の大切さを事例を通して考えます。

クラスで気になる子どもと関わる時、どのような関わりが子どもにとってわかりやすく、望ましい気づきを促すのでしょうか? 「人は誰でも得意と苦手があって、それと付き合って生きている」ことを共通理解しながら、「子どもと関わる大人の配慮や子どもの周辺環境の工夫に、一貫性が必要である」ことを、具体的な事例を通して一緒に考えてみましょう。しかし何よりもその前提となるのがわかりやすい授業、居心地のよいクラスであることは言うまでもありません。

8月20日(木)午前9時30分～11時30分

乳幼児発達理論に基づく個のニーズへの理解(林知代)

これまでも集団生活の中で過度に緊張をする、しゃべれない、落ち着きがない、社会的マナーやルールがわからない、コミュニケーションが取れない、ちょっとしたことで癇癢を起したり暴れる、知的に問題がないと思われるのに簡単なことを理解しないなどの問題が提起されたり、また不登校や引きこもりといった問題の捉え方もされてきました。現在学校では困難を抱える子どもへ個々人のニーズにかなった教育に目が向けられ始め、特別支援教育や発達障害についての施策が数多く発表されたり実施されています。しかし、教師や子どもにかかわる側にとって最も注意しなければならないことは、知識を増やしハウツーを学ぶ以前に、その対象となる子ども自身が発信している今・ここで生じている困り感をキャッチし、問題をよく観察し、その子どもの独自のニーズについて理解を深めるということではないでしょうか。講義では最新の乳幼児発達理論に基づく子ども理解について考えて生きます。

8月19日(水)午後12時20分～14時20分

保護者の立場より考える特別支援教育ならびに学校と保護者の連携(小崎真佐子)

保護者の望む支援～何が本人への支援となるのか

(現時点における人的・環境的支援～将来の自立につながる支援：具体的な取り組み等、事例を含めて)

学校と保護者の連携を深めるために(成功例、失敗例、連携が困難であっても行える本人支援、保護者にとって嬉しい言葉かけ・傷つく言葉かけとは)

個々のニーズにあった支援とは～TEACCHプログラムへの取り組みより

保護者および本人(幼少中高ならびに学業終了後)の生の声：こんなことに困っている、こんなサポートがほしい、など